グループホームやすらぎ (認知症対応型共同生活介護事業所)

1. 評 価 結 果 概 要 表

作成日　21　年　1　月　21　日

[評価実施概要]

事業所番号	1872000276
法人名	社会福祉法人　織田やすらぎ会
事業所名	グループホームやすらぎ
所在地	丹生郡越前町織田83-24-1 (電話)　0778-36-1170

評価機関名	社会福祉法人　福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3-22		
訪問調査日	平成21年12月2日	評価確定日	平成21年1月21日

[情報提供票より]　(　20 年　11 月　21 日　事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和 ・ ○平成　16　年　3　月　1　日			
ユニット数	2　ユニット	利用定員数計	18　人	
職員数	18　人	常勤　5 人、　非常勤　13 人、　常勤換算　13 人		

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート　造り
	2　階建ての　1　～　2　階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	13,500～30,000　円		その他の経費(月額)	円
敷金	有　(　円)			○無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有　(　円) ○無		有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	280　円	昼食	360　円
	夕食	360　円	おやつ	100　円
	または1日当たり		1100	円

(4)利用者の概要　(　月　日　現在)

利用者数	18　名	男性	5　名	女性	13　名
要介護1	2	要介護2	3		
要介護3	6	要介護4	5		
要介護5	1	要支援2	1		
年齢	平均　82.8　歳	最低	74　歳	最高	97　歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	越前町国民健康保険織田病院 ・ 丹原歯科医院

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

旧織田町を一望できる不老山のふもと、同法人の施設や事業所が隣接する中、母体の特別養護老人ホームと中庭を挟んで当グループホームがあり、西館と東館の2つのユニットが建てられている。
ユニット間は廊下でつながっており、入居者、職員とも日常的に行き来があり、ホーム全体として馴染みの関係ができている。母体施設への日常の行き来も可能であり、施設の行事にも参加するなどの交流がもたれている。
ホームの畑仕事を通じて、作物を育てる喜び、収穫の喜びを分かち合い、その収穫物を、日々の献立に取り入れて食べる楽しみにもつなげている。入居者は、畑仕事をはじめ昔ながらの料理の作り方等を職員に教えることで、昔の記憶や自信を取り戻すことができている。
職員主導ではなく、入居者の希望を取り入れるため月1回、入居者による「寄り合い」を開いており、主に翌月の外出先や、行事を決めている。
医療面では、かかりつけ医、関係医療機関の訪問診療が毎月行われ、健康管理に十分な配慮がなされている。

[重点項目への取組状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、家族会の開催や行事への参加呼びかけ等で家族がホームに足を運ぶ機会づくりがなされており、今後、家族の意見を聴く機会としての活用が期待される。しかし、提案箱の設置場所や同業者との一般職員を含めた交流、居室への馴染みの物の持ち込みを促す働きかけ等は継続課題として引き続きの取り組みを期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価をサービスの振り返りの機会と捉え、計画作成担当者を中心に、全職員が参加して自己評価を行っている。前回の評価結果を運営推進会議で報告したり、家族にも自由に閲覧してもらえるように面会簿と一緒に置いている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は2か月に1回開催されている。民生委員や婦人福祉協議会、老人会等の関係団体の代表、町担当者、地域包括支援センター、家族会代表をメンバーに、活動報告やホームの現状報告がなされている。外部評価や自己評価の結果も説明している。今後、ホームのある地区の区長等にも出席を依頼して、より身近な地域住民の理解と協力を促す取り組みが望まれる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族会を年2回開催している。家族にできるだけホームに足を運んでもらえるように、入居者の衣替えやホームの大掃除の手伝いを依頼したり、クリスマス会や納涼祭に招待している。以前、職員の名前と顔が一致しないとの意見があり、ホーム内に職員の名前入りの写真を掲示している。今後、家族に対して、ホーム独自でアンケートを行うことを検討しており、実施に当たってはより率直な意見を得られるような内容・回収方法の工夫を期待するとともに、玄関にある提案箱の設置場所についても、継続課題として再検討を期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	老人会に入会している入居者もおり、月に4回地域の囲碁サークルに通っている。事業所前にある畑の持ち主から、花や野菜を差し入れしてもらうなど地域住民との関わりがある。職員は、積極的に挨拶するなどして地域との接点を求め努力しているが、入居者が地域の行事に参加する機会は少ない。今後、地域の行事について情報を集め、入居者が参加できて、地域住民との交流につながる機会づくりを期待したい。

2．評　価　結　果　（詳細）

※ ■は、重点項目。

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「今日は今日のためにある」を事業所の理念として掲げている。また、家庭的な環境でその人らしく暮らすことや地域や家族との結びつきを重視するというホームの運営方針も理念と一緒に掲示している。	○	ホームとして、地域とのつながりを重視していることが運営方針からもうかがえるが、さらに地域密着型サービスとしての意義を踏まえ、ホーム独自の理念も職員自身の言葉でつくりあげることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、理念や運営方針をよく理解しており、入居者一人ひとりが役割を持ち、生き生きと過ごしてもらえるように、また、地域の馴染みの店に出かけるなどの支援をしている。		
		2　地域との支えあい			
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会に入会している入居者もおり、月に4回地域の囲碁サークルに通っている。事業所前にある畑の持ち主から、花や野菜を差し入れしてもらうなど地域住民との関わりがある。職員は、積極的に挨拶するなどして地域との接点を求め努力しているが、入居者が地域の行事に参加する機会は少ない。	○	地域の行事について情報を集め、入居者が参加できて、地域住民との交流につながる機会づくりを期待したい。特に、地元の小中学生との交流も継続して行うことで、グループホームとしての存在を地域住民に知ってもらうことにつながるものと期待される。
		3　理念を実践するための制度の理解と活用			
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価をサービスの振り返りの機会と捉え、計画作成担当者を中心に、全職員が参加して自己評価を行っている。前回の評価結果を運営推進会議で報告したり、家族にも自由に閲覧してもらえるように面会簿と一緒に置いている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催されている。民生委員や婦人福祉協議会、老人会等の関係団体の代表、町担当者、地域包括支援センター、家族会代表をメンバーに、活動報告やホームの現状報告がなされている。外部評価や自己評価の結果も説明している。	○	地域からは関係団体の代表者がメンバーに入っているが、特にホームのある地区の区長等にも出席を依頼して、より身近な地域住民の理解と協力を促す取り組みが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者が運営推進会議に参加している。また、管理者が母体施設の施設長を兼ねているため事あるごとに町から情報を得る体制ができている。		
		4　理念を実践するための体制			
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の行事の内容や健康状態、生活状況は利用者ごとに便りを家族あてに郵送している。また、ホーム内に、外出や行事の際の写真を飾り、来所された家族にホームでの活動の様子が分かるようになっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催している。また、家族にできるだけホームに足を運んでもらえるように、入居者の衣替えやホームの大掃除の手伝いを依頼したり、クリスマス会や納涼祭に招待している。以前、職員の名前と顔が一致しないとの意見があり、ホーム内に職員の名前入りの写真を掲示している。	○	家族に対して、ホーム独自でアンケートを行うことを検討しており、実施に当たってはより率直な意見を得られるような内容・回収方法の工夫を期待するとともに、玄関にある提案箱の設置場所についても、継続課題として再検討を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員の異動はない。日常的にユニット間の交流があり、ユニットの異なる入居者でも全職員と馴染みの関係にあるため、離職者がいても、フォローできる体制にある。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5　人材の育成と支援			
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会に毎月参加しており、可能な限り外部の研修にも参加している。研修報告を回覧することで、他の職員と内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会の研修には管理者、計画作成担当者が参加している。以前、他の事業所からの見学を受け入れたが、その後の交流までには至っていない。	○	管理者、計画作成担当者だけでなく、一般職員も他の事業所の職員と関わる機会を持つことで、提供しているサービスを客観的に見直したり、資質向上の動機付けとなることが期待できる。
		Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に、計画作成担当者が自宅を訪問してホームについての説明をするようにしている。利用前の見学やホームに来て昼食を一緒にとってもらうなど、無理なく入居につながるように配慮している。		
		2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的に、野菜の育て方や干し柿の作り方、漬物の付け方等昔ながらの知恵を教えてもらう機会がある。また、職員からの一方的な声かけではなく、冗談を言いあったり、入居者が職員を気遣う様子が職員と入居者との会話から確認できた。		
		Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時等職員と入居者が個別に関わる機会の中で、職員個々に本人の意向を確認していくという取り組みがなされている。	○	入居者ごとの行動の記録はあるが、職員個々が日々の関わりの中で把握した思いや意向について、その内容も記録に残すまでには至っていないため、今後、職員間で入居者一人ひとりの思いを確実に共有していくためにも記録の作成が期待される。
		2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	あえて担当制にはせず、職員全員で入居者一人ひとりに対して関わり、毎日の入居者の行動を記録したものを月単位でまとめ、それを介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回、日々の関わりで気づいたことや面会時等に確認した家族の意向を基に、職員間で意見を出し合う機会があり、必要に応じて計画の見直しを行っている。		
		3　多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師を配置し、医療連携体制をとって健康管理を行っている。身体機能の維持のために、母体施設に通ってリハビリを行ったり、歩行が困難な入居者が母体施設の特殊浴槽等を利用することも可能である。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医の受診が可能である。毎月、協力医、かかりつけ医がホームに来て診療を行っているため、入居者に関する情報が共有できている。必要時にはいつでも往診を依頼できる関係ができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に看取りを行ったケースもあるが、職員体制の面から現段階では重度化や終末期への対応は困難と考えている。利用前に本人や家族に対して、ホームとして対応できる限界を説明し、重度化、終末期を迎えた場合の対応についても助言している。		
		Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重		
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助が必要な方に対して、さりげなく介助に入る姿が確認できた。また、職員はパットやオムツ等もあからさまに表に出さないようにしてトイレに持っていく配慮もなされている。排泄チェック表も入居者の目に付かないところに置かれていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事の時間等、大体の時間は決まっているが、声かけする程度に留めて、無理強いはしないようにしている。お茶が飲みたいときには自分で入れて自由に飲めるようにお茶セットが用意してある。		
		(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	母体施設の栄養士がカロリー計算して作った献立に沿って調理している。また、調理、盛り付け、片付けの全てを職員と入居者が一緒に行っている。入居者と職員が同じテーブルにつき、会話を楽しみながら食事している姿も確認できた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴可能な時間に幅を持たせ、職員と入居者がマンツーマンでゆったりと入浴できる体制がある。入浴を拒否される場合でも無理強いすることなく、足のマッサージや、気分を変える声かけをすることで入浴を促す工夫をしている。ホームの浴槽の利用が困難な入居者に対して、母体施設の特殊浴槽を利用することで安全な入浴が可能となっている。		
		(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自室の掃除は基本的に入居者本人で行うようにしている。洗濯干しやアイロン掛けも、自由にできるように干し場やアイロンが準備されており、実際に使用されている。野菜作りをはじめ生け花や刺し子、つるし柿・おはぎ・漬物等の昔ながらの料理作りで入居者個々が持っている力を発揮できる機会が確保されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの神社やお不動さんへの散歩、地域の馴染みの店への買い物、外食等で外出の機会がある。馴染みの理髪店での散髪や自宅を見に行くなど個別の希望に沿った外出も行っている。		
		(4) 安心と安全を支える支援			
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やベランダ、中庭への出口、ユニット間の扉等、日中は鍵をかけていない。外出の希望があるときは、一緒に歩いたりと気分転換となる関わりを行っている。念のため、玄関に鈴をつけたり、玄関に向かう廊下の暖簾の裾に鈴を飾るなど違和感のない形で行動に気を配る工夫がなされている。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの向かいの住民にも協力してもらい、避難訓練を法人全体とホーム独自の年2回行っている。夜間を想定した避難訓練の実施や地域の方に避難の協力を依頼することも想定して、入居者の一人ひとりの名前を書いたたすきを用意するなど実際の避難に備えた取り組みがある。		
		(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の栄養士がカロリー計算して献立を作っている。水分や食事量のチェックを行い、一人ひとりの摂取量を把握しており、盛り付けの量も一人ひとりに合ったものとなっている。おやつの量も一人ひとりの希望や状態に合わせて量を調整している。		
		2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
29	81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にはマッサージチェアが設置されており、気分転換に利用することができる。ベランダや中庭は日当りがよく、日向ぼっこや洗濯を干したりと活用度が高い。ゆったりと座ることのできるソファーやユニット間の廊下の途中に置いてある椅子等思い思いの場所で過ごせる空間がある。浴室、トイレは十分な広さがあり安全に使用できるものとなっている。。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入り口には、入居者個々が選んだ布で手作りした暖簾がかかっており、自室を認識する目印になっている。自宅からテレビを持ち込んでいる方もいるが、馴染みの物の持ち込みに関しては布団以外の持ち込みが少ないように感じられた。	○	今後も、継続的に家族に対して馴染みの物を持ち込むことの意義を伝えていき、入居者一人ひとりが居心地よく過ごせるような取り組みを期待したい。

グループホームやすらぎ（東館）

自　己　評　価　票

■は、外部評価との共通項目。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の「今日は今日の為にある」の理念のもとに、主役は、お年寄り、私達は裏方を合言葉に楽しく愉快な日々を送っていただくよう努力している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は朝礼に参加する事で理念を共有する。また、理念を共有した上で、利用者の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	散髪に行った時や家族会や避難訓練の開催により、理解してもらえるよう努めている。また、外出時地域の方とゆっくり話しながらグループホームを知ってもらう。	○	これからも地域の方にグループホームを知っていただく為にもっと地域の方との触れ合う場を重ねていきたい。
	2　地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員は通りがかりの人に積極的に挨拶し顔なじみになるよう努めている。旬の野菜や花を頂き、利用者ともども喜んでいる。	○	旬の野菜や花を頂いた方には利用者の手作りの物で御礼をしたいと思っている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年1年はほとんど地域活動に参加出来なかった。	○	剱神社の掃除や東公園のゴミ拾いをしたい。地域の文化祭や高年大学にも参加したい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症ケア研修を行い、地域に貢献する事が出来ないか、話し合いをもっている。		
	3　理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をする事で、今まで積み重ねてきた介護内容を振り返り外部評価で更なる最善を考えている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、取り組み等の状況を報告しサービスの向上に活かしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人を通じて、行き来する機会を作りサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	今後、市町村より情報を貰い、より他界サービスの質の向上に取り組みたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在いない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待についての研修に参加報告し、防止に努めている。		
	4　理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所の際は、十分に説明を行い理解・納得してもらうよう努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の寄り合いの際に、利用者が意見や不満を聞く。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度は必ず個人別に健康状態、活動状況等、家族に報告している。又、面会時には日頃の生活ぶりを話している。健康状態に変化があればすぐに家族に連絡をとる。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族の意見等聞くようにしている。また、提案箱の設置や家族会を設けて、家族の意見を聞いている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で職員の意見や提案を聞き、利用者の活動に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	パート職員を導入しているので、必要な時間帯、行事、研修、受診時などは勤務調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者はいても全職員が一丸となり協力し合い利用者へのダメージがないよう配慮している。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5　人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらスキルアップしている。	○	職員の外部研修を受ける機会を設けていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会の研修に参加している。	○	同業者との勉強会等が開催されることがあれば参加したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年1回大学の先生によるスーパービジョンを受けている。また動作法を通じストレスの軽減に努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回人事考課を行い、個々の努力や実績、勤務状況を把握している。		
	Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の状況やケアマネを通しての相談内容を把握し、本人や家族との面談も通して、馴染みの関係を作るよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前にグループホームに来所してもらい、グループホームについて理解してもらう。また、職員はゆっくり話を聞くよう努めている。電話での対応もしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の時点でケアマネと連携を取りながら対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に体験入所を行い、グループホーム内を見学、相談に応じ、雰囲気に馴染める様支援している。又、事前に自宅のほうへ日頃の生活ぶりを見に行くこともある。		
	2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	味噌、漬物、梅干など昔ながらのものを作ることで、利用者から学び、支え合う関係を築いている。また、日々の生活の会話で、利用者は、職員の良き助言者となっている		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族は、普段から、利用者皆と顔合わせを行い、職員と共に支えあっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月1回のお知らせの時、生活状況の様子を書き、状態を知らせている。電話での活動の参加も呼びかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の生活スタイルを継続し、神社や寺等へ外出したり、趣味を楽しんでいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の準備や畑仕事の時間を共有し、一人ひとり孤立せずに、お互いを認め合い、助け合いながら生活している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする家族は、現在はいないが、いつでも対応する準備はできている。		
	Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回の寄り合いを行い、利用者の外出の希望や意見を聞き、意向に添えるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、面会時などに利用者、家族からの聞き取りを行い、少しでも普段の暮らしの把握に努めている。	○	自宅や馴染みの場所の写真より利用者の生活環境などをしり、寄り添いながらコミュニケーションをとっていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の過ごし方、心身状態は毎日の記録、連絡帳で状態を把握し、職員間で伝達している。		
	2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を取り入れ、日頃の生活の中で介護計画作成に努めている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた利用者に対しては、職員間で話し合い、計画を作成している。家族にも連絡している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成し記録している。食事、水分量、排泄など身体状況や日常の暮らしの様子なども記録している。全員で共有している。また、モニタリングを行い、ケアプランに活かしている。		
	3　多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問診療、医療連携体制を生かして利用者の負担となる入院の回避、医療の処置を受けながらグループホームで生活されている。		
	4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練等を行い、地域の方や消防署の協力を得ている。菊人形の付き添いにはボランティアをお願いした。	○	中学校の職場体験の受入を実施したが、これからも小学校や中学校、老人会などグループホーム独自で受入したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設の特別養護老人ホームやディサービスでの入浴を利用し、利用者の身体活動に応じたサービスを行っている。また、リハビリにも参加している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターより、運営推進会に参加してもらっている。また、支援状態の認知症の方については相談しながら、連携をとっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医との連携を大切にしており、月1回の訪問診療往診もお願いしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受診時には、職員が付き添い、状態の報告をしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師とは、常に状態報告を行い、相談している。協力病院やかかりつけ医の看護師とも協働している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時は、定期的に見舞う。また、病院関係者との情報交換を行っている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、職員、家族、かかりつけ医と話し合い、連携を取りながらケアに当たっている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームでの終末を迎え看取りを行った。職員一丸となって状態を観察把握し、かかりつけ医や家族とは常に連携を取りあい安らかな死を迎えられた。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	特別養護老人ホームへの入所が決定した場合、情報提供、関係者間で十分に話し合いの機会をもっている。又、職員と馴染むように行き来している。		
	Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重**			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人の生きてきた歴史を尊重し、人生の先輩として敬い、接する。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入浴時の衣服や外出先の選択等、自己決定の機会を多くとり、決定できるような働きかけをしている。又、月1回の寄り合いにて意見を表出できるように努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に時間の決めはなく、その人のその時の状態に応じ、要望を聞き、利用者の希望に添って支援している。		
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの理容店、美容院に行く。また、訪問散髪をお願いすることもある。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ皆が、分担しながら、食事の準備をしている。梅干、漬物、うどん作りなど自分たちが作った野菜を使い料理することもある。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	併設の特別養護老人ホームにある自販機を利用したり、自分でコーヒーを入れて飲む方もいる。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い、トイレへの声掛け、誘導、介助はこまめに行っている。プライドを傷つけないような声掛けもしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を実施しているが、日中いつでも入浴することが出来る様になっている。又、ディサービスの大きなお風呂に入ってゆったりと過ごしてもらうこともある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	軽体操など取り入れ、くつろげるような環境づくりに努めている。ソファでくつろぐ事もある。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家でされていた縫い物や畑仕事、手芸などをしてもらい、作る喜びを持ってもらっている。外出支援も取り入れている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方もおり、外出した時の支払は、自分でしている人もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	劔神社や近くの不動明王、東公園などには、出かけている。帰宅の要求があるときは一緒に出かけることもある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出の行事を多く計画し出かけている。家族にも行事の参加をお願いしている。個別に出かける人もある。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は自分でかける方もいる。年賀状を利用者自身が書き、1年お世話になった方に出し、書くことに慣れてもらう。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	部屋でくつろいだりホールで楽しく過ごす。ソファーを置き、ゆったりと和めるように努めている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から身体拘束をしないということでケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には、風鈴、入り口には鈴を設置し、鍵はかけていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	大きな声は出さず、見守る様にして安全の確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、ハサミは使い終わったら、手の届かない見えないところに保管。針は、本数の確認を必ずする		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員間では、研修を行い知識を学ぶ。利用者も参加し、避難訓練を行っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法を学び、急変に備えている。並びに、緊急連絡体制をとっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、避難訓練も行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ケアプランを家族に説明し家族の希望、グループホームの方針の話をしている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェック、排泄のチェックを行い、異変の発見に努めている。すぐに看護師に連絡、指示を仰いでいる。入浴時には全身チェックもしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の下、看護師が内服薬管理しており、症状の変化については、直ぐに看護師に連絡している。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防として食物繊維の多い物、また、畑で作った野菜を食べたり、好みの飲み物を十分に摂れるようにしている。並びに毎日の掃除や活動時、階段の昇降、軽体操を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、毎食後は歯磨きの実施を声掛けしている。嚥下体操や口腔内チェックも行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別養護老人ホームの栄養士の指導で、栄養のバランスを考え、食べる量、水分量は、毎食チェックを行い、体重の増減にも気を配っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗い、うがいは、日常的に行っている。また、インフルエンザの注射は実施している。朝夕2回は、次亜塩で手すり、椅子、便器等拭いている。また、インフルエンザ、ノロウイルスの時期には、面会者にも予防を推進している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は、食洗器使用、まな板は、日を決め消毒し、ふきんは毎日漂白剤に浸し、洗っている。また、新鮮な食材を使用し、食事作りチェックもしている。		
	2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に鉢植えを飾り、利用者と共に草むしりや掃き掃除をこまめに行っている。縁台を購入し、天気のいい日は玄関で日向ぼっこをする。		
81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールには、利用者と育てた花を飾り、季節感を取り入れている。		
82	○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー、マッサージチェアがあり、くつろぐことで出来る様にしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の入り口には、手作りの暖簾をかけている。また、部屋の配置を換えたり、家での馴染みの品を持ってきて下さる様お願いしている。	○	持ってきてくださる家族は少ないが馴染みの品を持ってきて下さる様お願いしている。
84	○換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	２４時間、換気扇設置。個人に合わせて温度調節を行っている。掃除の時は、窓を開けて換気している。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的にバリアフリーになっており、安全である。しかし、場所によっては階段もあるが、生活リハを行って自立支援に努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗しても指摘するようなことはせず、失敗を感じさせない様に対応している。例えば、食材切りなどは1対1で行う。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ、中庭では、洗濯干し、布団干しなどを行い、季節に応じ、大根干し、つるし柿などを作っている。玄関のプランターでは花を育て楽しんでいる。		

項目番号	項　　目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
	V　サービスの成果に関する項目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○　①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○　①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

・衛生面で、手拭タオルは、1回づつ洗濯、次亜塩での床や手すり、便器等毎日2回拭いており、手洗い励行、感染症対策をしている。
・医療面で、訪問診療、往診を月1回は行っている。体調不良者に対しては、昼夜を問わず、医療機関に受診している。
・外出支援（囲碁クラブ、劔神社へのおまいり、ドライブ、買い物）
・面会・外出は比較的自由である。
・畑仕事を通じて作る喜び、収穫の喜びを皆で分かち合える。また畑仕事を職員に教えることで、昔の記憶や自身を取り戻す。
・2ユニットが常に行き来して居り、連携を取り合っている。

グループホームやすらぎ（西館）

自　己　評　価　票

■は、外部評価との共通項目。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の「今日は今日の為にある」の理念のもとに、主役は、お年寄り、私達は裏方を合言葉に楽しく愉快な日々を送っていただくよう努力している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は朝礼に参加する事で理念を共有する。また、理念を共有した上で、利用者の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	散髪に行った時や家族会や避難訓練の開催により、理解してもらえるよう努めている。また、外出時地域の方とゆっくり話しながらグループホームを知ってもらう。	○	これからは地域の方にグループホームを知っていただく為にもっと地域の方との触れ合う場を重ねていきたい。
	2　地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員は通りがかりの人に積極的に挨拶し顔なじみになるように努めている。旬の野菜や花を頂き、利用者ともども喜んでいる。	○	旬の野菜や花を頂いた方には利用者の手作りの物で御礼をしたいと思っている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年1年は地域活動に参加出来なかった。	○	剱神社の掃除や東公園のゴミ拾いをしたい。地域の文化祭や高年大学にも参加したい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症ケア研修を行い、地域に貢献する事が出来ないか、話し合いをもっている。		
	3　理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をする事で、今まで積み重ねてきた介護内容を振り返り外部評価で更なる最善を考えている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、取り組み等の状況を報告しサービスの向上に活かしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人を通じて、行き来する機会を作りサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	今後、市町村より情報を貰い、より高いサービスの質の向上に取り組みたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在いない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待についての研修に参加報告し、防止に努めている。		
	4　理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所の際は、十分に説明を行い理解・納得してもらうよう努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の寄り合いの際に、利用者が意見や不満を聞く。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度は必ず個人別に健康状態、活動状況等、家族に報告している。又、面会時には日頃の生活ぶりを話している。健康状態に変化があればすぐに家族に連絡をとる。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族の意見等聞くようにしている。また、提案箱の設置や家族会を設けて、家族の意見を聞いている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で職員の意見や提案を聞き、利用者の活動に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	パート職員を導入しているので、必要な時間帯、行事、研修、受診時などは勤務調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者はいても全職員が一丸となり協力し合い利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5　人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらスキルアップしている。	○	職員の外部研修を受ける機会を設けていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会の研修に参加している。	○	地域の同業者との勉強会等が開催されることがあれば参加したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年1回大学の先生によるスーパービジョンを受けている。また動作法を通じストレスの軽減に努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回人事考課を行い、個々の努力や実績、勤務状況を把握している。		
	Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の状況やケアマネを通しての相談内容を把握し、本人や家族との面談も通して、馴染みの関係を作るよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前にグループホームに来所してもらい、グループホームについて理解してもらう。また、職員はゆっくり話を聞くよう努めている。電話での対応もしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の時点でケアマネと連携を取りながら対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に体験入所を行い、グループホーム内を見学、相談に応じ、雰囲気に馴染める様支援している。又、事前に自宅のほうへ日頃の生活ぶりを見に行くこともある。		
	2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	味噌、漬物、梅干など昔ながらのものを作ることで、利用者から学び、支え合う関係を築いている。また、日々の生活の会話で、利用者は、職員の良き助言者となっている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族は、普段から、利用者皆と顔合わせを行い、職員と共に支えあっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月1回のお知らせの時、生活状況の様子を書き、状態を知らせている。電話での活動の参加も呼びかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の生活スタイルを継続し、神社や寺等へ外出したり、趣味を楽しんでいる。囲碁に出かける人もいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の準備や畑仕事の時間を共有し、一人ひとり孤立せずに、お互いを認め合い、助け合いながら生活している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする家族は、現在はいないが、いつでも対応する準備はできている。		
	Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回の寄り合いを行い、利用者の外出の希望や意見を聞き、意向に添えるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、面会時などに利用者、家族からの聞き取りを行い、少しでも普段の暮らしの把握に努めている。	○	自宅や馴染みの場所の写真より利用者の生活環境などをしり、寄り添いながらコミュニケーションをとっていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の過ごし方、心身状態は毎日の記録、連絡帳にて状態を把握し、職員間で伝達している。		
	2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を取り入れ、日頃の生活の中で介護計画作成に努めている		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた利用者に対しては、職員間で話し合い、計画を作成している。家族にも連絡している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中や夜勤の様子を個別に記録しており、全員で共有している。また、モニタリングを行い、ケアプランに活かしている。		
	3　多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問診療、医療連携体制を生かして利用者の負担となる入院の回避、医療の処置を受けながらグループホームで生活されている		
	4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化･教育機関等と協力しながら支援している	老人会の'囲碁クラブに参加している。また、避難訓練等を行い、地域の方や消防署の協力を得ている。菊人形の付き添いにはボランティアをお願いした。	○	中学校の職場体験の受入を実施したがこれからも小学校や中学校、老人会などグループホーム独自で受入したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設の特別養護老人ホームやディサービスでの入浴を利用し、利用者の身体活動に応じたサービスを行っている。また、リハビリにも参加している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターより、運営推進会に参加してもらっている。また、支援状態の認知症の方については相談しながら、連携をとっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医との連携を大切にしており、月1回の訪問診療往診もお願いしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受診時には、職員が付き添い、状態の報告をしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師とは、常に状態報告を行い、相談している。協力病院やかかりつけ医の看護師とも協働している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時は、定期的に見舞う。また、病院関係者との情報交換を行っている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、職員、家族、かかりつけ医と話し合い、連携を取りながらケアに当たっている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末を迎えた人はいないが、生活支援を基盤として、昔馴染んだ音楽を聞かせ、脳の活性化を図っている。かかりつけ医とは、常に連携を取り合っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	特別養護老人ホームへの入所が決定した場合、情報提供、関係者間で十分に話し合いの機会をもっている。又、職員と馴染むように行き来している。		
	Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重**			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人の生きてきた歴史を尊重し、人生の先輩として敬い、接する。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入浴時の衣服や外出先の選択等、自己決定出来る様に働きかけている。又、月1回の寄り合いにて意見を表せるように努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に時間の決めはなく、その人のその時の状態に応じ、要望を聞き、利用者の希望に添って支援している。		
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの理容店、美容院に行く。また、訪問散髪をお願いすることもある。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ皆が、分担しながら、食事の準備をしている。梅干、漬物、うどん作りなど自分たちが作った野菜を使い料理することもある。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	併設の特別養護老人ホームにある自販機を利用したり、自分でコーヒーを入れて飲む方もいる。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い、トイレへの声掛け、誘導、介助はこまめに行っている。プライドを傷つけないような声掛けもしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を実施しているが、日中いつでも入浴することが出来る様になっている。又、ディサービスの大きなお風呂に入ってゆったりと過ごしてもらうこともある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	軽体操など取り入れ、くつろげるような環境づくりに努めている。ソファや畳の間でくつろぐ事もある。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家でされていた縫い物や畑仕事、手芸などをしてもらい、作る喜びを持ってもらっている。囲碁、将棋を楽しむ方もいる。外出支援も取り入れている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方もおり、外出した時の支払は、自分でしている人もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	劔神社や近くの不動明王、東公園などには、日常的に出かけている。帰宅の要求があるときは一緒に出かける事がある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出の行事を多く計画し出かけている。家族にも行事の参加をお願いしている。個別に出かける人もある。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は自分で掛けている、年賀状を利用者自身が書き、1年お世話になった方に出し、書くことに慣れてもらう。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	部屋でくつろいだりホールにソファを置き、ゆったりを和めるように努めている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から身体拘束をしないということでケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には、風鈴、入り口には鈴を設置し、鍵はかけていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	大きな声は出さず、見守る様にして安全の確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、ハサミは使い終わったら、手の届かない見えないところに保管。針は、本数の確認を必ずする。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員間では、研修を行い知識を学ぶ。利用者も参加し、避難訓練を行っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法を学び、急変に備えている。並びに、緊急連絡体制をとっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、避難訓練も行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ケアプランを家族に説明し家族の希望、グループホームの方針の話をしている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェック、排泄のチェックを行い、異変の発見に努めている。すぐに看護師に連絡、指示を仰いでいる。入浴時には全身チェックもしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の下、看護師が内服薬管理しており、症状の変化については、直ぐに看護師に連絡している。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防として食物繊維の多い物、また、畑で作った野菜を食べたり、好みの飲み物を十分に摂れるようにしている。並びに毎日の掃除や活動時、階段の昇降、軽体操を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、毎食後は歯磨きの実施を声掛けしている。口腔内チェック、嚥下体操も行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別養護老人ホームの栄養士の指導で、栄養のバランスを考え、食べる量、水分量は、毎食チェックを行い、体重の増減にも気を配っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗い、うがいは、日常的に行っている。また、インフルエンザの注射は実施している。朝夕2回は、次亜塩で手すり、椅子、便器等拭いている。また、インフルエンザ、ノロウイルスの時期には、面会者にも予防を推進している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は、食洗器使用、まな板は、日を決め消毒し、ふきんは毎日漂白剤に浸し、洗っている。また、新鮮な食材を使用し、食事作りチェックもしている。		
	2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に鉢植えを飾り、利用者と共に草むしりや掃き掃除をこまめに行っている。縁台を購入し、天気のいい日は玄関で日向ぼっこをする。		
81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やベランダ、ホールには、利用者と育てた花を飾り、季節感を取り入れている。		
82	○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーとマッサージチェアがあり、くつろぐことで出来る様にしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の入り口には、手作りの暖簾をかけている。また、部屋の配置を換えたり、家での馴染みの品を持ってきて下さる様お願いしている。	○	持ってきてくださる家族は少ないが、馴染みの品を持ってきて下さる様お願いしている。
84	○換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	２４時間、換気扇設置。個人に合わせて温度調節を行っている。掃除の時は、窓を開けて換気している。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的にバリアフリーになっており、安全である。しかし、場所によっては階段もあるが、生活リハを行って自立支援に努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗しても指摘するようなことはせず、失敗を感じさせない様に対応している。例えば、食材切りなどは1対1で行う。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ、中庭では、洗濯干し、布団干しなどを行い、季節に応じ、大根干し、つるし柿などを作っている。花壇では、花を育て楽しんでいる。		

項目番号	項　　目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
	V　サービスの成果に関する項目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○　①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○　①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

・衛生面で、手拭タオルは、1回づつ洗濯、次亜塩での床や手すり、便器等毎日2回拭いており、手洗い励行、感染症対策をしている。
・医療面で、訪問診療、往診を月1回は行っている。体調不良者に対しては、昼夜を問わず、医療機関に受診している。
・外出支援、（囲碁クラブ、劔神社へのお参り、外食会、ドライブ、買い物等）
・面会、外出は、比較的自由である。
・畑仕事を通じて、作る喜び、収穫の喜びを皆で分かち合える。また畑仕事を職員に教えることで、昔の記憶や自信を取り戻す。
・2ユニットが常に行き来をしており、連絡を取り合っている。